

つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書 (令和5年度) 2023年度

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場所	会員参加数
	2	10	土	9:00	12:30	脚折菜園・太田ヶ谷苗床	11
活動名称	小彼岸桜移植					報告者：小沼	

<活動目的>

脚折菜園の4年目の小彼岸桜を太田ヶ谷の森内の苗床に移植し、今後の桜植樹作業の効率化を図る。また、2年目の苗を根巻して植える場所を確保する。

<主な活動内容>

(脚折菜園での作業)

- 脚折菜園で根巻してある4年目の小彼岸桜は根巻設置後2年目となりコモを根が突き出ているため、プラポットに移し代える必要があった。
- また、脚折菜園では2月14日(水)に予定している3年目となる桜苗を植え替える場所を確保するため、4年目の桜苗を太田ヶ谷の森の苗床に移植する必要があった。
- 4年目の桜苗を掘り起こし、乾燥しないようゴミ袋に入れ、軽トラで太田ヶ谷の森へ運搬した。(桜苗59本を掘り起こす作業は30分程度で完了。)

(太田ヶ谷の森苗床での作業)

- 購入したプラポットの底の水抜き穴が少なく、このままでは夏に根腐れされる可能性があるため、ドリルで多数の穴を開け、苗床の土と購入したプランター用土を半々程度に混ぜ合わせたプラポットに桜苗をセットした。
- 苗床を掘り返し、プラポットに入れた桜苗を苗床に埋め込んだ。
- サッカー場横の水場からホースをつなぎ、プラポットに十分注水した。
- 59本の苗床への移植作業は12時30分に作業を終了できた。

<課題・評価>

- 会員参加者数が11人であったため、スムーズに作業を完了することができた。
- 桜苗はプラポットに入れてあるので他の場所に移植する場合、掘り起こしが楽であり、運搬も容易である。
- ロボティックセンターや新規に進出する企業等への桜苗の移植時期が不明確であるため、長い期間の育苗にプラポットは有効であると思われる。

<里山参加会員>

杉山、橋本、金、柳川、小沼、内藤、牛島、村上、小澤邦、小嶋 (小澤弘)

<活動写真> (脚折菜園) 桜掘り起こし

小沼弘さんは元気



(太田ヶ谷の森) 苗床の掘り起こし



プラポットの埋め込み

